


青木かずのり県政報告

Vol.
9



 一般質問

 議員連盟視察

 地域活動

 佐賀の七賢人紹介

平成29年6月定例議会が開会
6月20日一般質問で登壇しました！



 問1

インクルーシブ教育の推進について

 問2

明治維新150年事業について

問1 インクルーシブ教育の推進について

インクルーシブ教育システムとは、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられることなどが必要とされています。

障害のある子供については、その能力や可能性を最大限に伸ばし、そして自立し社会参加するために必要な力を培う為に、ひとりひとりの障害の状態に応じたきめ細かな配慮の下で適切な教育をおこなう必要があります。

平成18年12月に「障害者の権利に関する条約」が国連総会で採択され、我が国では平成19年9月に署名し、平成26年1月に批准しました。同条約でインクルーシブ教育の理念が提唱され、この理念の実現に向け文部科学省では、障害のある児童生徒等の就学手続きについて、特別支援学校の就学を原則とする仕組みから、市町村の教育委員会が障害の状態、教育上必要な支援の内容、地域における教育体制の整備の状況、その他の事情を勘案して総合的な観点から就学先を決定する仕組みに改正しました。

我が国では明治時代以前、障害のある子供は教育を受ける機会が十分に与えられていなかったのも事実であると思います。明治時代から、それぞれの障害の状態に対応した学校が設立され、障害のある子供の一部が教育を受けることができるようになりました。そして昭和時代の終わりに養護学校が義務化され、重度の障害のある子供に対しても教育の機会が保障され、全ての子供が教育を受ける仕組みができました。

しかし、障害のある子供たちを地域の学校から離れた就学先に通わせることで、通常学級から隔離し、分離しているという声が上がったこともありました。

ただ、同じ環境で学ぶことばかりを推し進めるあまり、十分なサポートをする体制の準備が不十分であったり、障害のある子供が授業についていけなかったり等、共に学ぶという理想を実現するためには、様々な課題への対策と環境整備が必要だということが分かります。

障害のある子供の能力や可能性を最大限に引き上げ、自立できるよう支援し、地域社会の中でも積極的に活動し、地域の同世代の子供たちや人々との交流を通じて、障害者理解を推進することで多様性を認め合い、公平性を確保できる社会をインクルーシブ教育の推進を通じて、実現していかなければならないと考えます。

県では、本年3月に佐賀県特別支援教育第三次推進プランを策定し、インクルーシブ教育システムに対応した特別支援教育の充実に取り組んでいます。

共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念は重要であり、その構築のため特別支援教育を着実に進めていく必要があると考え、交流及び共同学習の取組み状況、教員の専門性の確保や学級担任等への支援、今後の取組みについて質問しました。

私の母校では、以前より高等学校における発達障害のある生徒への支援の取組みの中で特別支援教育セミナーの開講や、障害のある生徒の受け入れに積極的に取組み、障害のない生徒が自主的に障害のある生徒と関わるなど成果として、いじめの防止にも繋がってきていると伺っています。

同校において、平成元年に普通科内に自閉症児クラスの「情緒クラス」を開設し学生当時、私も授業を共にして一緒に学んだことを今でも覚えています。

インクルーシブ教育の推進に当たっては、教員が特別支援教育に関する一定の知識や技能を有していることが求められるとともに、それぞれの立場で特別支援教育に対する意識向上への取組みも重要だと思います。

インクルーシブ教育の理念は、すべての子供のための教育であると確信するとともに、県においては、その理念を実現できるよう今後も見守って参ります。



問2 明治維新150年事業について

県では、来年2018年3月から明治維新150年事業として、肥前さが幕末維新博覧会を開催します。佐賀の偉業や偉人を顕彰することで、郷土への誇りと自信を持つことができる取組みであり、期待も込めて質問提案しました。

今年度に入り、鍋島直正公の銅像も再建され、続いて北海道開拓に貢献した島義勇の銅像建立に向けても寄付金の募集が始まることとなり、明治維新150周年に向けた動きがより大きくなってきており、事業開始となる本年度の取組みはとても重要です。

明治維新150年は、佐賀県の認知度を高める絶好のチャンスであるのと同時に、佐賀の偉人の偉業を広く発信する機会でもあります。

現代に生きる私たちは、歴史に想いを馳せます。歴史の面白いところ、魅力的なところは、その時代に生きた人物の想い、そして志に想いを馳せることだと思います。

佐賀藩では、藩祖である鍋島直茂公の志が直茂公亡き後の山本常朝に受け継がれ、その志を元に葉隠れを誕生させ、その常朝亡き後、約100年後に鍋島直正公が誕生し、その直正公は直茂公の志や直茂公が制定した21ヶ条、そして葉隠れの精神を受け継ぎ、佐賀藩の再興に尽くしてきたのだと思います。

鍋島直正公が先人の志を受け継いだように、僅か150年前に確かに佐賀県に存在した直正公をはじめとする幾多の偉人の志が現代へと受け継がれていくこと、そして受け継ぐことを目指すべきであり、明治維新150年事業を通じて現代の県民に伝えていくこと、またその偉業と志を全国に発信していくことは大変重要だと考えます。

その為に、何より全国への情報発信が必要だと提案しました。

佐賀藩の偉人は、幕末維新时期の名だたる偉人たちと偉業においては肩を並べていながら、他方で現実的に著名な偉人たちとの間には厳しくも認知度の格差があると言わざるをえないと思います。

私自身、日本史の中で幕末明治維新时期に最も魅力を感じていることから、様々な地域の様々な世代の方々と幕末維新时期の偉人たちの話をして参りました。その中で共通しているのは、佐賀の偉人の名前は聞いたことがあるけど、その偉人が佐賀出身との認識までには至っていないところです。

本事業で連携を進めている、薩長土、薩摩（鹿児島）、長州（山口）、土佐（高知）の偉人たちと認知度でも肩を並べられるよう、今回の明治維新150年事業を通じて情報発信に力を入れねばなりません。認知度が向上してこそ、薩長土肥の真の連携であり、肥前佐賀を全国に認知していただくチャンスなのです。

私は全国で認知されたものこそ、県内の認知度向上にも繋がり、同時に逆輸入された高い認知度のものにこそ県民の誇りが根付くのではないかと考えております。

私は幼少時より坂本龍馬が好きで、本、映画など坂本龍馬を題材にしたものであれば、すぐに飛びついていました。では何故、坂本龍馬を好きになったかと言うと、それは知名度の高さや情報が身近にあったからだと思います。知名度が高くなることで、受け入れる敷居が低くなり、また人物像もヒーロー化されることから、子供たちにも受け入れやすくなると思います。そして子供たちが成長する中で、偉人をより深く知り、志に触れることができれば、その偉人が育ったふるさとを訪ねようと自然と足が向くのだと思います。佐賀の偉人たちが将来の子供たちのヒーローとなって、佐賀を訪れてくれる人々が増えればと希望を持っています。

認知度を向上させるのは決して簡単なことではありませんが、コストをかけなくても工夫とアイデア次第で様々な情報発信が可能だと思います。

明治維新から来年で150年を迎えます。本事業を通じて、150年経っても決して色あせることのない佐賀の偉人たちの偉業と志の数々を全国に発信し、そして本事業がわれわれ佐賀県民にとって広く関われる事業となることを期待しています。

議員連盟視察

九州新幹線西九州ルート整備促進議員連盟の現地視察が行われ、嬉野温泉駅（仮称）高架橋、袴野橋りょう、武雄トンネルを視察し、各所で工事概要の説明を受けました。

西九州ルートにおいては、昭和47年に基本計画が決定し、40年以上が経過し全体像が見えてきたと思います。

九州新幹線西九州ルートへはFGT（フリーゲージトレイン・軌間可変電車）の開発が進んでいますが、今後の国及びJR九州等との議論次第では方向性が変わる可能性もあるかもしれません。



様々な課題が山積している為、今後とも議論を重ねて丁寧な説明をしていかなばなりません。

様々な課題が山積している為、今後とも議論を重ねて丁寧な説明をしていかなばなりません。

江藤新平銅像まつり

第41回を迎える江藤新平銅像まつりに参列しました。江藤新平は、佐賀の七賢人のひとりで新政府の初代司法卿（現在の法務大臣）であり、満40歳という若さで処刑されてしまいました。

近代日本の司法制度を確立した人物で正義に溢れる偉人です。

昭和51年に銅像が佐賀市の神野公園内に建立され、例年命日の翌日に銅像まつりが開催されています。

来年の平成30年には明治維新から150年を迎え、県でも事業が始まりました。

江藤新平をはじめ、明治維新と日本近代化の礎を築いた佐賀の偉人たちの偉業と志を広く全国に発信していかなばなりません。

明治維新150年事業、肥前さが幕末維新博覧会の開催に向けて佐賀の更なる認知度向上に尽力していきます。

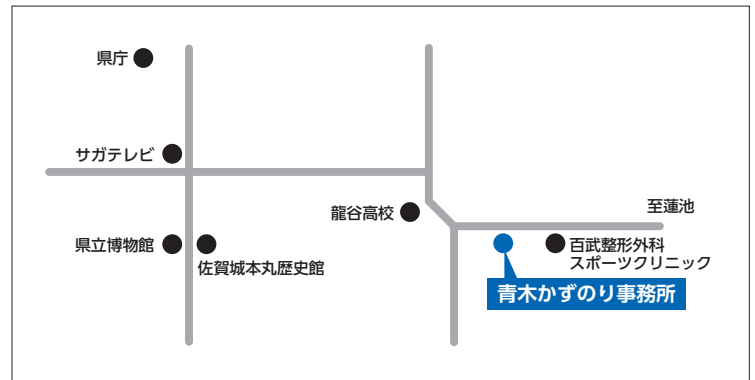


青木かずのり活動報告

- 4月 目達原駐屯地記念行事参列
ベトナムで活躍する服部匡志（眼科医）さんと面会
異業種交流会花見会参加
4月臨時議会開会（玄海原発再稼動に関して）
- 江藤新平銅像まつり参列
龍造寺八幡宮春季大祭参列
農業用水溜池陥没による陳情対応
4月臨時議会開会（委員会委員選任等人事に関して）
佐賀市川副町後援会の方々との懇談に参加
- 5月 佐賀キワニスクラブ主催懇親会出席
有田陶器市訪問
城原川ダム建設促進期成会設立総会出席
県土整備警察常任委員会理事会出席
地方議員研究会セミナー受講（東京）
楠神社楠公祭参列
- 議員連盟視察（嬉野市・武雄市）
親戚会開催
- 6月 佐賀空港新幹線問題等特別委員会開催
議員と学生との交流会参加
国体全国障害者スポーツ大会準備委員会出席
6月定例議会開会
一般質問登壇
北山東部地区草刈り参加
米国独立記念レセプション出席

青木かずのり事務所

〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目1-43
TEL 0952-97-9323 FAX 0952-97-9324
公式HP <http://aokikazunori.com>
E-mail aoki.saga@gmail.com



facebookとtwitter随時更新中

佐賀の七賢人紹介



佐賀県議会議員 青木かずのり